

## 御 挨拶

京都府高等学校体育連盟  
両丹支部長 藤田 浩  
(京都府立福知山高等学校長)

令和4年度京都府高等学校体育連盟「高体連誌第62号」の発行にあたり、御挨拶申し上げます。両丹支部各加盟校及び各専門部の皆様をはじめ、各競技団体並びに関係諸機関の皆様には、本支部の活動に御理解・御支援いただき、誠にありがとうございます。この間、格別の御指導・御支援いただきました会長の村上昌司様をはじめとして、本部事務局、関係のすべての皆様に心より感謝申し上げます。

本年度は、府立高校再編により、全日制課程においては網野高校と久美浜高校、宮津高校と加悦谷高校が統合され丹後緑風高校と宮津天橋高校となり、加盟校が18校から16校になりました。そのため、役員や運営組織を変更しました。また、定時制通信制においては、宮津高校伊根分校と網野高校間人分校が今年度末に閉校となることから現行の加盟校での事業としては最後の年となりました。

そのような中、本年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大による様々な制限や影響を受けたものの、昨年度は中止となりました両丹高等学校総合体育大会（5月）、一般生徒対象事業（2月）そして両丹高等学校定時制通信制総合体育大会（9月）を実施することができました。さらに、各専門部事業においてもおおむね予定どおりに実施することができました。コロナ禍の厳しい状況が続いてきた中において、生徒の成果を発揮する場を持つことができたことは喜びであり、大変感謝するところであります。一方で、男子74回、女子36回を数えた両丹高校駅伝が実施困難な状況を踏まえ廃止となり、長い歴史を閉じました。

特に、各専門部においては、全国大会や近畿大会等で多くの両丹地域の生徒が活躍をしました。全国高等学校総合体育大会においては、レスリング競技男子65kg級で丹後緑風高校の細川 周選手が、ウエイトリフティング競技男子89kg級で宮津天橋高校の今井鼓太郎選手、女子55kg級で海洋高校の川崎菜々紗選手、71kg級で宮津天橋高校の下村愛里選手、76kg超級で同校の長島和奏選手が、見事に日本一に輝くなど素晴らしい結果を残しました。定時制通信制課程においても、卓球競技、ソフトテニス競技、バドミントン競技、陸上競技で全国定時制通信制総合体育大会に出場しました。これらの選手をはじめとして両丹地域の多くの選手が、熱心に取り組み、力を発揮してくれたことは選手の努力の成果であることは言うまでもありませんが、各校で御指導いただいた顧問の先生方、大会を運営いただいた専門部の皆様の御尽力の賜であると、深く感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症については5類感染症への引き下げが予定されており、これからはWithコロナ、ポストコロナとして、新しい生活様式や感染対策を行いながら、取り組んでいかなければならないところです。しかし、学校数や生徒数の減少により、運動部への加入生徒数が減少するという課題は、両丹支部においても顕著であり、大会運営に大きな影響が出るだけでなく、大会自体の実施が危ぶまれる専門部も出てきています。また、定時制通信制においては来年度より加盟校が2校減少する予定であり、総合体育大会の大会運営についても検討が必要とされています。このような状況ではありますが、両丹支部といたしましても、府高体連並びに事務局とも連携を図り、各専門部が競技の普及と強化に取り組み、生徒がより一層活躍できるよう本支部の事業を進めていくよう努めて参ります。

結びにあたり、今後も両丹支部の活動に御理解・御支援いただきますようお願い申し上げます、御挨拶とさせていただきます。